

子どもの成長に感謝
すこやかな成長を祝って
11/11(日)

人力車で 七五三参り

「七五三おめでとう」の声に笑顔と笑い声。子どもたちを見守る温かいまなざしと和やかな雰囲気の中、14組(17人のお子さん)親子が水郷旧家磯山邸に集い、人力車で市内周遊を楽しみました。

この事業は、日本の伝統行事「七五三」をとおして、郷土愛を育み、定住促進につなげることを目的に実施。参加者の方々から、「人力車に乗るなど良い体験ができた。みんなで祝いできてうれしい」との声をいただきました。



親子で、お友達同士で
みんなで楽しくコミュニケーション

みんなで作った
アイシングクッキー!

七五三
おめでとう!

想像したり、掛け声をかけたり
楽しかったね!

初めての人力車
どんなものが見えたかな?

紙芝居協力：潮来市立図書館

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第37回

世界湖沼会議で学生たちが研究成果を発信

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)が、10月15日〜19日につくば国際会議場をメイン会場として開催されました。この国際会議はおよそ2年ごとに世界各地で開催されており、茨城県で開催されるのは1995年に続き2回目です。今回のテーマは「人と湖沼の共生―持続可能な生態系サービスを目指して―」でした。

初日の10月15日には、茨城大学の三村信男学長が「地球環境の変動と湖沼の未来」というタイトルで基調講演を行いました。「閉鎖性水域である湖沼は環境の変化に対して脆弱だが、同時に、外からの圧力に対する適応力も有している。それぞれの地域の湖沼の個性にあわせた賢い利用(ワイズユース)によって湖沼の健全性を維持することこそが、気候変動適応の基盤になる」と述べ、住民が湖沼に関心をもち、その恵みを実感することが重要であると指摘しました。また、連日の分科会やポスター展示では、世界各地の湖沼に関わる専門家、行政関係者、学生・生徒、市民などが話題を提供しました。

研究機関や企業等による展示会では、茨城大学もブースを設け、湖沼に関わる多岐にわたる取り組みを学生たちが紹介しました。このうち、北浦に生息する魚類の変遷について、



世界湖沼会議での水圏センターの展示

1960年代と2010年代に記録された魚類の標本写真を並べて紹介する大型パネル(写真)は、茨城大学水圏センター(潮来市大生)で保管していた過去の標本などを調査した最新の研究成果をもとに作られたものです。また、外来魚チャネルキャットフィッシュ(別名アメリカナマズ)について、霞ヶ浦での生態をパネルで紹介するとともに、当センターでの実習時に釣獲された全長84cmの個体の剥製も展示しました。どちらも他では見られないインパクトのある資料で、大変好評でした。近いうちに市民のみならずにもお披露出する機会を設けたいと考えております。

茨城大学広域水圏環境
科学教育研究センター
加納 光樹